

2019年8月28日

各 位

SBI エナジー株式会社

岩手県遠野市初！メガソーラーシェアリングが稼働開始
岩手県の特産品 畑わさびを栽培、地域活性化に貢献

SBI ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：北尾 吉孝）の100%子会社で、再生可能エネルギーを用いた発電事業等を行う SBI エナジー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：中塚 一宏、以下「SBI エナジー」）は、岩手県遠野市で開発を進めてきた営農型太陽光発電所「SBI 遠野第一ソーラーシェアリング発電所」が、2019年6月17日より商業運転を開始したことを受け、2019年8月23日に竣工式を執り行いましたのでお知らせします。

SBI エナジーが取り組むソーラーシェアリングは、千葉県匝瑳市でのメガソーラーシェアリングプロジェクトへの参加に次いで2件目となります。

ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）とは、農地に支柱を立てて太陽光発電設備を設置し、営農を継続しながら太陽光発電事業を行う仕組みで、過疎化が進む地域の農地保全及び農業振興に加え、地域経済の活性化につながるモデルケースとして注目されています。

本発電所は、株式会社東北銀行（本店所在地：盛岡市内丸3番1号、取締役頭取：村上 尚登）よりプロジェクトファイナンスの形で融資を受け、協栄電工株式会社（本社：岩手県奥州市水沢、代表取締役：千田 新一）が設計・施工を担当。総面積約1.9ha、発電出力1.2メガワットの太陽光発電を行うとともに、下部農地での営農は、合同会社オービットファーム（本社：岩手県紫波郡紫波町、代表：佐藤 大実）に委託し、岩手県の特産品の一つである「畑わさび」の栽培を予定しております。

想定年間発電量は約1,390MWh(20年平均)となり、一般家庭約316世帯分の年間電力量を賄うとともに、約702t・CO₂/kWh※1のCO₂削減に貢献します。

発電した電力は再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用して東北電力に売電し、売電収入の一部を、営農者や地域に還元するなど、本発電事業を通じて地域活性化にも貢献してまいります。

SBI エナジーは、今後とも、地域資源を有効活用した環境に優しいエネルギーづくりを通じて、持続可能な地域社会の構築と地域経済の活性化に貢献してまいります。



【発電所概要】

施設名称 : SBI 遠野第一ソーラーシェアリング発電所
設置場所 : 岩手県遠野市青笹町中沢
事業者 : SBI エナジー株式会社
代表取締役社長 中塚 一宏
営農者 : 合同会社オービットファーム
株式会社オービットワン 職務執行者 佐藤 大実
発電開始日 : 2019年6月17日
設備容量 : 1,217kW(1,369kW)
想定年間発電量 : 約 1,390MWh (20年平均 / 一般家庭消費電力量 約 316世帯相当)
電気主任技術者 : 一般社団法人東北電気保安協会
メンテナンス : 株式会社オービットワン

※1 太陽光発電設備のCO2削減効果：結晶系シリコン太陽電池のCO2削減効果 504.5g-CO2/kWhをもとに試算。

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ先：

SBI エナジー株式会社 営業企画部 03-6229-0075